

2025年（令和7年）1月30日

明石市長 丸谷 聡子 様

明石市市民参画推進会議
会長 田端 和彦

答 申 書

2025年（令和7年）1月14日付け明総第67号において諮問のありましたみだしのことについて当推進会議で審議した結果を取りまとめましたので、下記のとおり答申いたします。

記

1. 令和4年度及び令和5年度の明石市市民参画条例の運用状況の評価

両年度を通じて、適正に運用されていると認められます。

ただし、現在の運用状況報告書には、主に手続の実施件数等の数値データが記載されていますが、当推進会議がより有効な評価を行うためには、市がどのような施策を行い、それらに関する参画手続をどのように評価しているのか「見える化」することが重要です。そして「血の通った」報告書とするためには、次に掲げる事項を記載するなどの工夫を行っていただきたいと考えます。

- (1) その年度に実施された参画手続の特色について。
- (2) 参画手続を行った職員が、手続を行う中で感じた「手応えや課題」について。

2. 明石市自治基本条例の検証に当たっての当推進会議の意見

令和5年度以降、研修の充実による職員の意識改革、庁内通信紙等の活用による制度の周知浸透が図られています。また、社会情勢に応じた条例改正をしたほか、タウンミーティングの開催や、まるちゃんポストの設置等を通じて市民のニーズを的確に把握し、施策に反映された事例も多数見受けられます。施策への反映を通し職員の意識改革もさらに進んでいると考えます。

今後、市民参画が更に推進されるよう、次のとおり委員から意見を徴取しましたので、市政運営に活かしていただきますようお願いいたします。

- ・ 令和5年度に審議会委員の男女別の割合が4割以上に変更されましたが、基準を満たしており、職員のご尽力があったと思います。実施原則の未達成部分が減ってきていることから、市民参画も進んでいると感じます。
- ・ 昔から市民の声を聞こうという風潮はありましたが、現在はより積極的に市民参画の取組みがされるようになり、市民の権利が保障される時代になったと思います。タウンミーティングの認知度も上がってきており、私の周りからも「参加する。」という声が聞こえてきます。
- ・ タウンミーティングについて、若者の参加率を向上させたり、実施の成果について公表したりするなど、参画の結果、市政にどのような変化をもたらすことになったのか、との観点から市民参画をさらに広げる工夫が必要になると思います。
- ・ 形式的な参画手続の履行に留まらず、関わった職員が「市民の意見が施策の遂行に非常に役立つこと」を理解できているのは素晴らしいことで、手続をしっかり履行すれば、更に市民参画が進んでいきます。
- ・ 参画手続の実施について市民に広く周知するためには、情報発信の方法を工夫することが大切です。例えば、市のホームページに参画手続のお知らせを掲載する際には、レイアウトや構成を工夫して、市民が自分で深く調べなくともお知らせを読めるようにしたり、外国人市民や視覚障害者を含め、誰もが理解できる内容にするため、難しい言葉を易しい言葉に言い換えるなどの工夫をしてください。
- ・ 参画手続を通じてより重要な意見をより多く得るためには、「当事者による参画」を拡大することが有効です。施策の検討に際し、対象となる多様な当事者に多く参画していただけるよう、タウンミーティングを活用するなど、参画の機会について、職員の研修を含め、工夫していただきたいと考えます。
- ・ 延長保育料の料金が見直され、保護者として大変助かりました。見直しのきっかけがまるちゃんポストのご意見からという市民参画の実績を市民に対して積極的にアピールしていけば、市民の参画意識も一層高まるのではないのでしょうか。